「対話と実行」座談会 農業大学校生との座談会
「高知県立農業大学校」（Ｈ22.10.12）の概要

（１）開会

県司会：　最初に農業大学校長から開会の挨拶をさせていただきます。

校長：　本日は、この座談会に最終学年の２年生 39 名の中から 13 名の代表、それから後援会校友会、本校の職員を含めまして総勢 23 名が参加をしております。なお、せっかくの機会ですので、71 名の在学生全員も後ろのほうで拝聴いたします。

農業大学校として 28 回目になりましたが、高知の夏の祭典よさこい祭には 84 名全員が参加いたしました。沿道の皆さんから大きな声援を受ける中で力いっぱい踊り、１年生・２年生共に、ひとまわり大きくなったような気がいたしております。

８月下旬から９月にかけましては、14 名の学生がオランダ、ウェストラント市へ海外研修として行って参りました。オランダの最新の園芸技術、あるいは流通の実態を実際肌に感じて帰ってきております。

また、先週６日には、香川県で開催されました四国地区の農業大学校の学生スポーツ連盟のスポーツ大会に全員が参加し、軟式野球と卓球の２つの部門で優勝するなど大きな成果を持ち帰っております。

さらに、今月の下旬からは、オランダ、ウェストラント市のレンティス校へ２名の留学研修が決定しており、現在、最終の調整、準備を進めております。

２年生の来年４月以降の進路ですが、卒業してすぐに就農する者、それからＪＡ或いは青果市場をはじめとした農業関係へ就職される者、それぞれ進路は違いますが、これまで１年半培ってきた最後のまとめを急いでいるところです。

本日は、農業大学校でのこの１年半の生活を振り返り、かねてから知事に将来の夢を話したいという希望の学生がたくさんおります。

現在、本校では、２年生３９名、１年生４５名、あわせて８４名が学んでおります。特に１年生につきましては、１年間全寮制で入寮して、実習、それから座学に励んでおるところです。また、本日、出席いただいておりますが、卒業後は、今日おいでの後援会名誉会長や校友会会長のように近代的なあるいは先進的な農業経営、地域の指導者として、またＪＡ等農業機関の各機関で活躍いただいております。

本日は、知事と直接お話ができるということで、学生それぞれ一人一人が発言させていただきます。知事のほうからもコメントなり感想をいただければ幸いに思います。

（２）　知事あいさつ

皆さん。こんにちは。

今日は、農業大学校の皆さん、参加をしていただいてありがとうございます。

私は、毎年農業大学校の皆さんと意見交換させていただいています。去年までは知事公邸で

意見交換をさせていただいていて、本当に若い、これから農業をやっていこうというお気持ちを持っている皆さんのいろんな思いを聞かせていただいて、大変勉強になりました。

今、高知県では、産業振興計画を全力で実施しております。高知県の経済をどうやって元気にしていくかということです。高知県の経済がどうして厳しいのかというと、これは本当に難しい課題です。平成２年以来人口がずっと減り続け、８４万人いた人口が７７万人まで減ってしまった。さらには、仕事をしている年齢の若い世代の人達の人数が、どんどん減っています。

ということは、稼げる給料のトータルの金額というのが小さくなるということを意味し、結果として県内の市場規模、マーケットの規模というのは、どんどん小さくなっています。

高知県で一番物が売れていたのは平成９年でした。この時は２兆円。平成１９年が一番新しいデータになりますが、１兆６千億円しか売れていません。２兆円から１兆６千億円まで、２割も少なくなっています。それぐらい高知県の経済規模というのは、小さくなっているということです。足元の経済規模がどんどん小さくなっている、縮んでいるというのが今の本県の実態です。

だから、何をしなければならないのかというと、外からお金を稼いで来るということです。田舎だから閉じこもってはいけない。田舎だから外に打って出て行かなければいけないと、そのように思っているところです。ゆえに地産外商が必要だといつも申し上げて、これを旗頭にして産業振興計画を実行しようとしているところです。

外に打って出て行く時には、どうすればいいでしょうか。いろんなことがありますが、単に弱いところを補うという発想だけではだめです。むしろ、自分の持っている強みというのを最大限、発揮するようにしなければいけないと思います。皆さんがしているスポーツでも何でもそうだと思うし、日ごろの人間関係でも、勉強でも学業でも何でもそうだと思いますが、自分の持ち味を生かすということが非常に重要だと思います。

高知県の経済にとって持ち味とは何か。これは間違いのないことでありますけれども、一次産業が強い、農業が強いということです。これが高知県の経済が持っている持ち味です。これを生かしていって地産外商、外から外貨を稼げる。そういう経済体質をつくっていかなければなりません。

多くの皆さんが勉強されたと思いますが、高知県の園芸農業の土地当たりの生産性はずば抜けて高い、全国第１番です。畜産だって量は少ないけれども良い品物がとれる。売り込みに行ったら非常に良い成果をあげることができる。これは土地が狭いということがあって、先輩達が一生懸命努力をされた結果、園芸農業というものを生み出していったわけです。皆さんは、その伝統を一生懸命学んでおられるわけです。これから皆さんは、この高知県の強みをしっかりと引き継いでいただきたいと思います。ただ、恐らく、それだけではこれからは足りないでしょう。

野菜の生産量全国第１位は千葉県です。２番は茨城県。３番から５番の間に必ず埼玉県が入ります。要するに昔は高知県が築き上げてきたこの園芸農業、この強みというのをだんだん他の県も真似するようになってきました。強みがあっても、単にいつまでもしがみついているだ

けでは、他の人に追いつかれてしまってだめで、新しい強みというのを作り出していかなければならないと、思っています。

園芸作物にしても、安全安心ということを徹底して追及していく、環境保全型農業というのを徹底的に追及していくことで質を上げていく。さらには日本で一番というのを目指すためにも世界の一番の国と手を取り合っていこうじゃないかと、オランダのウェストラント市との協定を結んで、お互い留学に行ったり、さらに来週にはウェストラント市の市長が（高知県に）おいでになり、相互の交流をしようとしています。環境保全型農業の世界一番の国と我々高知県はしっかり手を結んでお互いに勉強していくことでもって、少なくとも日本一にはなってやろうと今、目指しているわけです。

売り方にしても、上手な高知県になっていきたいと思っています。今、盛んにアンテナショップのことなどいろいろ報道されていますが、アンテナショップに限らず、地産外商公社というのを設けて官民協働で売り込みを図ろうと一生懸命やっています。龍馬ブームのお陰もあって、そういう機会は広がっていっているところです。

そしてもうひとつは、皆さんがいろいろ作られている一次産品。これに関連した産業を育てていくことも重要です。食品加工の分野とか、それはいまや観光に生きるようなそういう時代にもなってきている。ドーンと一次産業の強みがあって、その関連産業が、裾野が広がっていくような、富士山のような形の産業構造というのをつくっていくということが是非とも重要です。

要するに、今から農家というのは、いろんなことにチャレンジしていく。作るものの技術を極める、販売の技術を学んでいく、関連産業を育成していく。いろんなことをやっていかなければならないと、思っています。これから農業をやるということは、先端的なビジネスをやるということです。私はいつも、これからの農業は格好いい農業なんだと言っています。

また、食糧自給率向上ということを今、国も真剣に言い始めました。インドと中国が豊かになってきた。昔は自転車で通勤していたのが、全部車に乗るようになったらどうなるか。だから、石油価格は上がってるんですよね。食糧だって同じことが起こってきます。自国の食糧は自国で確保するということを目指していかないと、２０年後３０年後、日本は大変なことになるかもしれない。そのためにも、一次産業というのは今、追い風が吹いている産業でもあります。追い風が吹いている中で格好いいビジネスをやっていく。そういう若い農業者の皆さんが、これからどんどん育っていっていただきたいと、本当に心から私達、県のスタッフは思っているところです。

幸いにして、就農者の皆さんが、最近段々増えてきまして、一昨年ぐらいまで毎年１１０人くらいでしたが、今年は１９７人の方が農業に就いていただくようになりました。昭和５６年に統計をとり始めてから、一番多い数字です。農業というものに世の中の目が向いてきた。日本全体としては、健全なことだと僕は思うし、そうあるべきだと思いますけど、これは即ち皆さんにとっても大いに世の中の追い風が吹いているということだと思っています。

是非、皆さん、この農業大学校、日本でも最高レベルの技術を教えてくれる学校でもありま

すし、素晴らしい諸先輩方もいる学校であります。この学校で一生懸命勉強をして頑張っていただきたい、そのように思っております。

学生の皆さんからご意見をおうかがいしますが、日ごろの活動とかからいろいろ教えていただければ、私もまたいろんな事に気付かせていただくんじゃないかなと思っています。どうぞよろしくお願いします。

＝　このあと、司会により、後援会名誉会長、校友会会長及び職員の紹介がありました。　＝

（３）　生徒意見発表

Ａさん：　園芸学科２年です。この農大ではニラとピーマンを担当していて、１月にある卒論では、ピーマンを発表しようかと思っています。

今、法人に就職が決まっていて、そこで野菜の栽培方式や管理体制を学んで、将来は自分で農業を始められるようにそこの会社で学んでいきたいと思っています。

農大で最近思い出に残っていることは、８月によさこい祭りがあったのですが、そこでは本気で踊れたと。本番でメダルをもらえるんですけど、それも最後にやっともらえて、２年間の思い出としては強く残っています。

知事：　よさこいでメダルもらってよかったね。どこでもらった。

Ａさん：　追手筋です。

知事：　追手筋のメダルというのは、一番権威があり、あそこでもらえるのが一番すごい。僕も今年、龍馬の格好をして踊ったら、もらえまして、「これはやっぱり踊りの実力やろう」と言ったら、周りの人から、「それは違うろう。知事やきもらえただけよや」とか言われて。

だけど、Ａさんよかったね。おめでとうございました。

農業法人の会社に勤めるのですか。良かったね、どこに決まった。

Ａさん：　香美市にある法人です。

知事：　おめでとうございます。高知県に残ってがんばってくれるんだね。是非がんばってください。ありがとうございました。今度は、農業で花メダルをもらってください。

Ｂさん：　野菜科２年です。家は非農家ですが、家の近くで徳谷トマトを栽培しているということもあり、農業に興味をもちまして、農業大学校に入学させてもらいました。

学校ではトマトの栽培の勉強をしています。来年の春にはＪＡ高知市に就職が決まっています。まだまだ力不足ですが、農家の力になっていきたいと思っています。

知事：　ありがとうございます。徳谷トマトの栽培をされているのを見て、そこでどのような興味がわいてきましたか。

Ｂさん：　トマトが好きっていうのがありまして、直接的には栽培しているところを見ていないですけど、近くの徳谷トマトのハウスを見て自分も作ってみたいなと思いました。

知事：　徳谷トマトを食べていると、本当にトマトがこんなにうまいかと思うもんね。徳谷トマトをはじめとして高知県のトマトは、本当に全国区、全国でもトップクラスですからね。

全国でトップクラスになるというのは、並大抵のことじゃなくて、どうしたらああいうものが作れるかというのは確かに興味深いですよね。農大で勉強してみてどうでしたか。自分でも何かできそうですか。

Ｂさん：　将来、自分の特別なトマト、フルーツトマトみたいなものも作っていきたいと思いますけど、まずはＪＡで農家の手助けとか勉強していって基盤を作ってやっていきたいと思っています。

知事：　頑張ってくださいね。ありがとうございました。

司会：　ここで、農業大学校で採れました新高梨の試食をしていただきたいと思います。学生のほうから紹介をさせていただきます。

Ｃさん：　今年の新高梨ですが、夏場の高温乾燥により、少々蜜が入っているものが多く、青果率は５割以下となりました。玉太りのほうも５月から６月の天候不順、８月、９月の高温乾燥により少々悪く、ひと玉１キロの割合は非常に少ない状況です。果実内容は例年よりよく、糖度は１４以上が多く、これは平年に比べ１から１．５％高い傾向となっております。今回、試食していただいている新高梨の糖度は１３．８となっております。

知事：　ありがとうございました。確かにおいしい。１３．８度ですか。今、おっしゃった、暑さが原因で蜜症が多く出たのですか。

Ｃさん：　はい。

知事：　けど、できたのは、すごくいいのができたということですね。こんなに大きいのに、甘いというのはたいしたものですね。

ちなみに、針木の新高梨を、東京のアンテナショップで一昨日くらいから出してもら

い始めたんですよ。ものすごく売れているみたいです。甘くて美味しいということで。大きいのに甘くておいしいというのは多くの人には衝撃らしくて、これもやはり高い技術の継承ですね。

13.8 度なんて本当すごい。ありがとうございました。

Ｄさん：　野菜科専攻しています。僕の家は安芸市でナスを栽培しています。農大では、ナスをプロジェクトとして品種比較の検討を行なっています。作物を栽培したことがなく、収穫の喜びや管理の難しさなど勉強になりました。卒業後は、就農を予定しています。将来は安芸市を農業で元気にできるよう頑張っていきたいと思います。

知事：　どう、ナスはご自宅で作られるようなナスが作れるようになってきた。お父さん、お母さんは、ナスは何を作っておられるのですか。

Ｄさん：　品種は龍馬ナスを作っています。

知事：　環境保全型農業もやっておられる。

Ｄさん：　取り組んでおります。

知事：　安芸のナスといったらトップクラスですから。がんばってくださいね。

安芸は最近、盛り上がっているでしょう。岩崎弥太郎で盛り上がってないですか。岩崎弥太郎の生家にどれだけお客さんが来ているか知っていますか。もう多分２０万人位お客さん来ています。普通の年だと１万人位しか来ないのが２０万人も来ている。大河ドラマの龍馬伝、香川照之さんがやっている岩崎弥太郎知ってるよね。ものすごいナイスキャラでキャラがたっているから盛り上がっていて、大変人気なんですけど。

安芸に行った観光客の皆さんが、岩崎弥太郎邸を見に行くが、帰りに安芸が好きになって帰って行く大きな理由が、釜揚げちりめん丼や、ナスのタタキがすごくおいしかったとかです。大体、ナスがタタキで食べることができてこんなにうまいものとは知らなかったとかね、そういう人がたくさんいるそうです。

だから、おいしいナスを作ってもらって、さっき言ったように、例えば観光と絡めて観光客に食べてもらったりとか、外に持って行ってナスのおいしさでもって安芸をＰＲして、今度は逆にそれで観光客を引っ張って来たりとか、いろんな関連する産業と一緒にやっていくっていうのは、ものすごく重要になると思うんです。Ｄさん、是非、がんばって下さい。

Ｅさん：　野菜科２年です。同級生の皆さんからすると、お父さん、お母さんぐらいの年齢になっていますので、ちょっと違和感があるかもしれませんけど。生まれ育った家は農家で

すが、小さい時に親のしんどい目をずっと見ていましたので、農業は絶対しないということで非農家のところに嫁いだんですが、親孝行もしたいなと。

それで仕事も辞めて親元に出向いて行ったところで、本当にずっと手伝いもしていなかったので何もできないわけです。ちょうど同級生が「農業大学校に行くよ」というのを聞いて、「じゃあ頑張ってね」と言っていたところが、二次募集があって、私も願書を出して入学させていただいた訳です。

学校では、子供と同世代の学生と過ごすのが楽しいです。いろいろ今まで親が作物を栽培していたのは知っていたけど、そういう苦労も知って、やはり卒業後は親の手伝いをしながら自分でもハウスのひとつも作っていきたいなと思ってます。

また、卒業後は加工とか、野菜ソムリエなども視野に入れて、作るのもマイナスが出ないように頑張っていきたいと思っています。

知事：　素晴らしいですね。お父様、お母様、大変喜んでおられますでしょう。

Ｅさん：　毎年、田植え、稲刈りとか、そういうところはわりと近くの方にみえるので、「誰がやりゆうぞね」みたいな感じで、「娘が手伝うてくれゆう」言うたら、「まあ、えいね」とか言ってくれて、やはり近所の人にもやっていることを見てもらいたいです。

これから先、借金してハスウ建てても、そのハウスの償却期間、頑張ってやれるだろうかという思いはあるんですけど、元気でできる年齢プラスあと１０年は頑張ってやっていきたいなと思います。

知事：　集落全体がＩターン、Ｕターン、Ｊターンとかいろいろ言われますけども活気づきますよね。私もいろんなところに行って、お話聞きますけどね。

Ｅさん：　「あの人もやりゆうき、今、農業が流行っちゅうがかもしれん」と活気づけになるきっかけになればいいなと思います。

知事：　逆に言いますと、我々もＥさんみたいな方を是非先駆として、あとに続く方が出てきていただくとありがたいです。本当にそういう方をおおいに募集していますので。

Ｆさん：　園芸学科です。広島県出身です。将来の目標と夢は、今、ＪＡ幡多を受けて、そこに就職できた場合は、この学校の技術、学んだことを生かして力をつけて、３０年、４０年、定年後に就農したいと思います。本籍地は高知県の黒潮町で、土地があるので使いたいと思っています。

知事：　生まれ育ちは広島県ですか。

Ｆさん：　生まれた所は香川県です。父親の仕事上、転勤を繰り返していて、生まれたところに３ヶ月しかいなくて、そのあと北海道へ行って、２年後静岡に行って、また北海道に戻ってきて、香川県に行って、広島県に行ってからここに来ました。

知事：　非農家でいらっしゃいますよね。それでも農業大学校に行って、農家の勉強しようと思ったというきっかけはどういうところにあるんですか。

Ｆさん：　小さい頃から、それも小学校の頃から農業をしたいと思っていました。

知事：　小学校ぐらいから思っていたのですか。

Ｆさん：　はい。その頃は皆、消防士や警察官になりたいとかで、皆に変わっていると言われたんですけど。でも何故か農業をやりたかったんです。高校も農業高校に行こうと思っていたんですが、母親が、もしかしたら違うことが見つかるかもしれないということで普通科に行ったんですけど、３年間変らず農業がしたいということで、この学校に来ました。

知事：　素晴らしい。小学生の時、どうして農業をしたいと思うようになったかって、覚えていますか。

Ｆさん：　学校の休みに、祖父が田植えや稲刈りをするのを手伝いに行っていて、それが格好よく見えたんですね。

知事：　なるほど。Ｆさんみたいに小学生の時に農家になりたいと思った非農家のお子さんって結構いますよね。子供の頃に１回体験して、それが面白そうだったとか格好いいと思ったとかね。残念ながらしばらく教育の中で一次産業の中で体験というのをやっていなかった時期がありましたが、この数年間は、だんだん増やしています。頑張ってくださいね。

Ｇさん：　園芸学科２年です。僕は兵庫県から来ているんですけど、ここに来る前はやはり農業といったら、貧乏っちい、負のイメージがつきまとっていたんですけど、ここに来てから頭を使う知的な職業だなととても勉強になりました。楽しかった行事はやはり、よさこい祭ですね。

知事：　あれは高知の祭だって知ってましたか。

Ｇさん：　存在自体を知らなかったです。

知事：　存在自体を知らなかった。そうですか。

Ｇさん：　ちょっと失礼なんですけど、片田舎の小さい出店が出てくるようなお祭やろうなと思っていたんですけど、実際に踊ってみて、すごい人数で、２年間踊ってとても楽しかったです。心残りは最後の花メダルを後ろで踊っていたＡさんにかすめ取られことです。

　将来の夢ですが、高知での就職を望んでいるので、農大で学んだことを高知に還元していきたいなと思っています。また、１週間のオランダの研修にも行かせていただいたんですけが、率直な感想として、オランダの農業はやはりいい意味で大雑把でしたね。

　日本は、要らんところで複雑にしているかなという印象があるので、いいところは学んでいきたいなと思いました。良い研修だったので機会があればまたもう一度他の国にもいきたいです。

知事：　ありがとうございました。農業は頭を使う知的な職業。確かに、それはそんな簡単なことじゃないし、さっき僕が、ビジネスと言いましたけど、わかるでしょう。

Ｇさん：　はい、そうですね。身にしみてわかりました。

知事：　技術使って、ものを作って、それをしっかり売っていって。それぞれ農家一人一人が農家経営をしていくという意味において社長になる。そういう意味では非常におもしろい。

　オランダのウェストラント市に行った時にものすごく感銘を受けたのは、まさにそういう会社として農業をやっている人がたくさんいるじゃないですか。さらには、自分で需要を生み出すということをやっている人がたくさんいるんです。クレスト社だったかな。もともとウェストラント市との橋渡しをしてくれた社長さんでもあるんですけど。そこにはオープンキッチンがある。あれを使って、いろんな人を招いて試食会をやらせて、それで契約を取り付けてくるんだって言っています。

　今、東京のアンテナショップでも、盛んに試食会をやってそれを契約につなげようということをやろうとしているんです。クレスト社の技も少し盗ませてもらったりもしましたけど。

　やはり、これからああいう形でこういう食べ方がありますよ、こういう良い品物がありますよということを提案していって、それで顧客をつかんでいくなんていう仕事も、これから新しい時代の農家の皆さんは、やっていかれることになるんでしょうね。

先輩からもご意見もいかがですか。

後援会名誉会長：　今、商売のことで少しお話がありましたが、私も昔、先輩に言われました。「作り上手より売り上手」という言葉があります。皆さんにもわかるように、一生懸命作っても、品物を売った時には叩かれて二束三文に売られるという時があります。一生

懸命、心を、愛を込めて作ったものが素晴らしい価格で売れて、初めて利益があがります。そういうことも皆さんこれから十二分に研究して売らないと、皆さんは、これから、家族ができて過ごしていかないといけない。その中でも自分達が生活して利益も上げないといけない。

消費者のために安心安全なもの提供するのも大事ですが、お金も取らなくては楽しい生活はできません。作り上手より売り上手と、そういうことも考えて農業を進めていってもらいたいと思っております。

それともう一点は、皆様方はまだ若いです。やはり、若い時の発想・考え、それは素晴らしい力です。年を取れば取るほど自分の力というか発想力が少なくなります。若い時には、その発想を十二分に使って新しい技術、新しい計画を作って前向きに進んで下さい。

また、皆様方、若いから言いますけど。これから出て行くと、いろんな形で挫折ということを知ります。前へ動けない。けど、挫折をしてそこで「ちゃがまった」らそれぐらいの人間です。その挫折を乗り越えて、もうひとつ上の人間になることを君たちに期待をします。頑張ってください。

司会：　ここでアイスクリームの用意が来ましたので、学生のほうから紹介をさせていただきます。

Ｈさん：　このアイスは畜産学科の製品で、牛乳の消費拡大を考慮して、生クリームを十分に使用し、乳脂肪分が８％以上、乳固形分が１５％以上のアイスクリームです。こだわりは、高級感と食べた後の爽やかさです。カップには８０～１００ｍｌ入っており、原料は牛乳、生クリーム、鶏卵、グラニュー糖の代わりに黒糖が入っています。

知事：　ものすごく濃厚ですね。これはモカかと思ったら黒糖の色か。栄養たっぷりだね。これだったら、子供にたくさん食べてもらってもいいね。ありがとうございます。

Ｉさん：　園芸学科花き専攻しています。私の家は、須崎市にあり、名産であるミョウガを周年栽培しています。私がこの学校に来たきっかけは、昔からそのミョウガの栽培を学校が休みの日などに手伝っていて、それで興味がわいたので、高校は工業学校でしたが、大学はこの学校へ来ようと高校の途中で決めてここに来ました。

花き科では、ユリとストックの育種方法、栽培方法について学んでいます。１０月の末からは、オランダへ１ヶ月の留学研修もあるので、そこではユリの育て方とあらゆることを学び、将来、自分ちで栽培してみようと思っています。

知事：　ミョウガを昔から手伝っていたんですか。工業高校だったけど、やはりやってみようと

いうことで農大に来たんですね。是非、頑張ってください。ミョウガといったら高知県ですからね。期待しています。

ユリもやってみようと。１ヶ月間の留学ですか。

Ｉさん：　はい、そうです。

知事：　今までウェストラント市へは行ったことあるんですか。

Ｉさん：　９月にもそういう１週間の研修があったんですけど、自分は行っていないです。

知事：　私は、ユリは、ある農園さんのところに品評会の時に１回か２回行かせていただいたことがあるんですが、毎年毎年新種がたくさん出てくる。それの中から品評会で、これが今年の流行だからこれが売れるだろうっていうのを選んできて、それを育てて販売すると。ユリの世界ってファッション業界みたいだよね。だから、すごいなと思って話を聞いてた。

オランダに行ってびっくりしたのは、花き市場が自動化されて機械化された市場なんです。見てきてください。世界観変わるから。農業っていうのはこんなことになるのかみたいな。ものすごいですから。言うのはここまでにとどめますけど。その１ヶ月の留学、大変有意義だと思いますよ、頑張ってくださいね。

Ｊさん：　園芸学科花き専攻しています。私の家は米農家で、小さい頃から親の作業を見てきて、その頃から農家になろうと思っていて、この学校に入りました。卒業後は家を継いで、農業大学校とオランダで得た知識を生かしてより品質の良い米、野菜などを作っていきたいと思っています。将来的には花き栽培も取り入れたいと思っています。

知事：　介良のほうですか。

Ｊさん：　朝倉です。朝倉以外にも春野とかに畑を持っていてやっています。

知事：　僕は、父親と母親は幡多ですが、実家は鴨部のほうにありまして、朝倉の田んぼでよく遊んでいました。花き栽培も取り入れたいと思ったというのは、やはりオランダでの経験ですか。

Ｊさん：　そうですね。この大学に入る前に花に興味があって、花き科に入って１週間のオランダの研修に行きました。そこで全くの規模の違いに圧倒されました。

知事：　市場も見てきましたか。

Ｊさん：　市場は行ってないです。

知事：　市場から技術が学べるわけじゃないんですけど、スケール感を会得できるというか。オランダはヨーロッパにおける花の中心らしいんです。あそこにいろんなものが集結して、ヨーロッパのあちこちに出て行く。さらには世界にも輸出されていくということらしいんですよ。全部、オートメーションになっていてすごいんですけどね。

逆に言うと、これの意味するところは、農業が、もう国の中でも完全に主要産業になっているということですね。日本といったら、どちらかというと重化学工業とか、最近はＩＴ系とかソフトとか、いわゆる先端技術産業というのが主要産業みたいな世界になってきているけど、オランダはど真ん中に一次産業というのを据えているんですよね。そこに多くの人が就業していて、それに二次産業とか三次産業もぶら下がってきているような、そういう国づくりをしています。

さっき、言ったように、日本も引き続き重化学工業も先端技術工業も強い国であり続けると思うのですが、今よりもはるかに一次産業というのをもっと大事にする国にならないといけないし、食糧をできるだけ自給できるようにするためにも、そういうことがこれから求められている時代と思うんです。正面、ど真ん中に一次産業を据えている国から学ぶことは大きいなという感じがします。

ちなみに、ウェストラント市っていうのは、園芸農業と花もそうですけど、オランダの中でも主要産地なんです。そこの市長さんは、選挙で選ばれるんじゃなく、前の農業大臣、国の農業大臣が、その主要産地の市長さんになるんです。

日本も、これからだんだんそうなっていくはず。以前は日本はそうだったんですが、ここ１００年くらいは、どちらかというと別の系統にものすごく力を入れて国力を増した。再びバランスがとれるような時代になってくる。そういう時代が来るんだと思います。

Ｋさん：　花き科２年です。実家のほうはナスを作っていますが、ここでは花き科に入って花の勉強をさせてもらっています。他のところで就職していていろいろありまして、ここに入ってくるようなかたちになりました。

トルコギキョウの栽培を勉強させてもらって、就職のほうは、花苗などを経営している農業法人に内定しましたので、そちらでオリジナルビオラに関するものに携わっていけたらいいなと思っています。家に帰って農家を継ぐかどうかは未定ですけど、これからちょっとずつ頑張っていきたいと思っています。

知事：　この前「対話と実行」座談会の時に、アグリマネジメントクラブの皆さんと意見交換会をさせていただきました。その時に、お話しさせていただき、（その農業法人の）苗場も見させていただきました。七つ葉のクローバーとか、クリスマスツリーみたいな観賞用のトウガラシを作られたりとか、本当に創造に富んだことをやっておられます。面白いだろうね。

Ｌさん：　園芸学科２年です。私は非農家ですが、グロリオサに興味をもって、この農業大学校に入学しました。将来は農業関係の職に就きたいと考えておりまして、定年した後にでも土地を買うか借りるかして農業をやりたいと考えております。

知事：　グロリオサのどういうところに興味を持ったんですか。

Ｌさん：　どうしてあんな花になったんだろうというのが最初でして。そこから、どうやって育てていっているかとか気になり始めまして、今に至るわけです。

知事：　グロリオサのあの形と赤と黄色とかって、例えば中国なんかだと、ものすごくもてはやされるそうですね。フラワーフェスティバルというのがあった時、皇族の方もおいでになって、私もずっとついて見させてもらいましたけど、本当に高知の花の技術って高いですよね。

定年後は土地を買うか借りるかして農業をしたいと考えていますか。もう定年後って決めているの。

Ｌさん：　定年後じゃなくても、お金が貯まり次第。

知事：　頑張ってください。

Ｍさん：　園芸学科果樹科です。私の家は、土佐文旦とショウガを栽培しており、農業大学校に来ました。卒業後は新しい落葉果樹と常緑果樹を育てていきたいと思います。

11 月にショウガが始まるので、それを手伝いに来てもらいたいんですけど。お願いします。

知事：　告白しますけど、どちらかというと先祖代々漁師の系統で、自分自身で農作業というのは、幼稚園とか小学校の体験以外あんまりやったことないんです。だから、１回やってみたいかもしれないな。面白いですね。

ちなみに、文旦のプロジェクトに取り組んでおられますか。土佐文旦ですか。

Ｍさん：　はい、そうです。今もやっています。

知事：　そうですか。土佐文旦はこれからおおいに稼ぎ頭になってもらいたい。単価が高い。まだアンテナショップに出せる時期じゃないので。アンテナショップに出せるようになるのを楽しみにしているんですけどね。

大阪に持って行ったら、ものすごく売れたんです。ただ東京に持って行った時は、試食

をやってなかったのもあるかも知れませんけど、あんまり売れてなかった。何で売れてないかというと、やはり、まだ知名度が低い。愛媛のデコポンのほうがはるかに知られていたりして。逆に言うと、これから伸びる余地があるということです。これから売り込んでいくと、もっと伸び上がっていく余力があるということだと思うので、是非がんばっていきたいと思います。

Ｎさん：　園芸学科２年です。私は非農家ですが、卒業後は農業に関わるような市場やＪＡなどで仕事をしたいと思っています。また、ここの農業大学校には農業に興味があって入りましたので、少しでも生かせる仕事がしたく、高知県のためになるような仕事に就きたいです。

知事：　卒業後は農業に関わる仕事をということですけど、将来的には就農しようと考えたりしますか。

Ｎさん：　できれば就農もしたいですが、土地を借りるしかないので。

知事：　若い方で就農したいけど、土地が大変だという方が結構いらっしゃる。他方では、耕作放棄地がたくさん出ていて、それも大変だという話もあります。農業公社では、空いた土地の情報を集約して、これから農業をやりたいと思っている人につなぐという仕事をやっているんですが、またいろんな仕事もしていかれながらも、そういうのも注目していただきたいと思います。

Ｈさん：　畜産学科２年です。家は非農家ですが、１０年位前まで祖父が養豚業をやっていました。それで自分も畜産のことを学びたいと思い農業大学校の畜産学科に入学しました。
　将来は和牛の肥育経営をやってみたいと思っています。そのために、県外の大規模な牧場に就職して飼育技術やマネジメントについて学びたいと思っています。

知事：　和牛の肥育をやってみたい。どういう和牛ですか。

Ｈさん：　まだわからないです。

知事：　高知県の畜産は、規模は大きくないけれど、技術はかなり高いので良いものがとれるというのをご存知ですか。だから、全国的な肉のカリスマみたいな人が論評すると、「やはり素晴らしい。さし重視じゃなくて赤身のうまさというのを売っていくような、今、流れとしては良い牛だ」とかって言ってくれて、実際、売り込みをかけてくれて結構売れます。
　それから、アンテナショップの人気メニューが窪川の豚。四万十ポークのカツを使って

いるお昼ご飯というのは、鰹のタタキの次に売れたりしているんです。確かにおいしい。

是非、高知県の畜産を引っ張っていってくださいね。

校友会会長：　この学校で学んだ同級生、特にこの友達関係というものが農業経営の中で非常に役立っています。お互いここで勉強しあった仲間達が同じ職に就いた時に、これだけ厳しい状況の中で頑張る姿を見た時に、俺も一緒に頑張ろうというような気持ちで、非常に励みになっています。そういう意味で、ここで学んだ仲間達の関係というものを将来に生かしていただいて、将来、当然家族を持つと思いますが、地域のことに目を向けて、生まれ育った地域に対して感謝の気持ちを忘れずに社会に巣立って行っていただきたい、私はこんなに思います

＝　このあと、学生のほうから、大学校で作られたナス、アスパラガス、ニラ、ピーマン、ショウガやパンジー、ビオラ、ケイトウの寄せ植えなどの紹介がありました。　＝

＝　傍聴席の学生から、知事に質問やご意見をいただきました。　＝

Ｏさん：　私、これからの農業の方向性のひとつに、福祉のほうはどうかなと、二つ考えていることがありますので、直接知事にうかがって、今後の自分の行く末も考えたいと思っております。

一つは、今、高知型福祉を県でもいろいろやっているようなんですが、やはり、市町村が主体になります。高知県の東部で山田養護学校の中芸分校、田野分校ができます。そこに農業施設をひとつぽんと作っていただいて、そこに障害者や高齢者、地域の人が集まってふれあい活動をするのはどうかと思います。

もう一つは、高知野菜体操というのがあります。私も授業でいろいろ教えてもらいました。佐藤弘道お兄さんが踊っております。県内の保育園に配られているそうですが、それを老人施設等に配っていただいて、老人仕様ということで、ここは知事に佐藤さんの代わりに踊っていただいたり、その時、スローバージョンで是非お願いしたいなと思います。県内で、地域で、百歳体操とか、いきいき体操とかいろいろあるんですが、高知野菜体操、すごいリハビリにいいんじゃないかなと思いましたので、この二点をこの機会に言わせていただきました。農大に来て一番良かったです。

知事：　高知野菜体操のＤＶＤを社会福祉施設にというのはちょっと考えましょう。私が踊るかどうかというのは、ちょっとそれはわからないですが。

高知型福祉と経済を結びつけるというのは非常に重要なことで、高知型福祉というのは、日本一の健康長寿県構想の中でやっているものです。高知型福祉とさかんに言っているのは県ですが、実際には福祉の話ですから市町村と一緒に一体となってやっていくことが非常に

重要で、県と市町村、あと社会福祉協議会とか民生委員といった関係の人で一緒にやっていく。そういう取り組みだと思います。

あったかふれあいセンターといったものを今さかんに作っていて、県内で今、３８か所。今年度中に４４か所、３４市町村全部でできるようになると思うんですが、そういう取り組みを増やしていきたいと思います。

山田養護学校の田野分校に農業施設みたいなのを作ったらどうかということですか。田野分校は、設計とかこれからですね。ちょっと考えてみます。

イエスにしろノーにしろ、結果をお伝えするようにしますから。少し時間かかると思いますけど、検討します。ありがとうございました。

Ｅさん：　耕作していない土地は、農業公社とかに聞きに行くと、農家の人からここを貸しますよというところは申請が出てきて、こことここは借れますよということはあるんですけど、見ると、どうも耕作していない、荒れているのに、全然載っていないところは借りたいと思っても、どなたが持ち主なのか交渉する手立てがない。だから、そういう申請がないところの耕作していない土地とかを把握して、どういう交渉をすれば、そこが借りられるかという、もっと気軽に土地が探せる、そういうことをお願いしたいなと思います。

知事：　農業公社に耕作放棄地の情報を集めようとして、最近は加速度的に増えてきているんですけど。最初の頃、すごく苦戦した。ご存知のとおり、登録すると取られるんじゃないかといった疑心暗鬼が結構あったりして、そういうことでは決してないですよということをお伝えするにしたがって、農業公社も段々信用していただくようになってきて数が増えてきています。今後も続けていかないといけないですね。

もう一つ、この土地を借りたいけれども、どこに相談したらいいか、そこがない。そういうのがあったらもっと便利じゃないかということですよね。交渉する先とつなぐワンストップの相談窓口、入口というか、そういうのがあるといいですね、確かに。

Ｐさん：　先ほどの話で、アンテナショップの話がありましたけど、アンテナショップをこれから増やしていくという予定はありますか。

知事：　アンテナショップはほとんどの県はもうやっています。高知県は一時盛んにやっていた時期があったけど、撤退しました。吉祥寺と築地にありましたが、今は完全に民間の会社でやっていただき、逆に言うと、県の政策でどうしたこうしたということは、なかなか言えない状況になっています。だけど、それでも特に吉祥寺のほうについては、一生懸命、高知県のＰＲをしてくれていてありがたいです

例えば、北海道や沖縄、宮崎、新潟県、鳥取県、島根県、それから香川県や愛媛県も皆

一生懸命売り込みをかけようとしているわけです。高知県も、８月２１日に新しくオープンをしました。だから、そういう意味では、大きくしたばっかりみたいな、そういう状況です。

首都圏でいろいろ物を売ったりレストランでご飯を食べてもらったりということをしてもらうのが、まず目的ですが、さっき言ったように、クレスト社がやっているようなその場で、例えば調理して食べさせて、それをプロの人に見てもらって次の契約を取り付けてくるみたいな、こういう積極的な前方展開型の外商活動をやっています。

それともう一つは、高知県で売れ筋のものを持って行って売るのですが、東京では売れない場合もあります。どういうふうに売れた、どういうふうに売れなかったというデータを生産者の方にフィードバックする。そうすることでいわゆるテストマーケティングができるわけです。次は売れる商品に磨き上げるきっかけをつかんでいただく。そういうような機能も持たせたりしようとしているところです。

Ｑさん：　先ほども度々中国やインドの話が出てきましたけど、中国、インドの先進国化に高知県としてはどういうふうに対応していくかを知事の個人的な考え方でもいいので、是非聞かせていただけないでしょうか。

知事：　高知県としては、追い風として生かしていくべきだというふうに思っていますね。

ちなみに、ちょっと今、政治でもめていますけど、これは長い目でみれば一時的な紛争であって、やはり中国と日本というのは、これからずっと仲良くしてくべき友人である、本当によき隣人、よい友達だという意識でいるべきだと私は思うんです。

それから、中国の経済発展が日本にとって脅威だとか言っているけど、中国から一番お金を稼いでいるのは日本ですから。日本と中国との間は貿易赤字なんじゃなくて貿易黒字。中国が経済発展をすると日本はどんどん中国に物を輸出していって、中国の人に買ってもらってお金を稼いでいるわけです。中国がリッチになってくると攻め込んできて、日本は全部られるんじゃないかと一時言われましたが、むしろ反対で、中国がリッチになると日本もその分、外貨を稼ぐことができるようになってきた、そういう関係にある。これが大きな流れだと思うんです。

だけど、この二点は、よくよく気をつけてないといけないと思います。中国の人が皆、車に乗るようになってくると、石油をものすごく使うようになります。すると、石油は、技術的にも採れる量というのは一定限られているので、だんだん値段が上がってくるようになってきます。今までのように貿易で稼いだお金でいくらでも外国から石油、ガソリンというのを輸入できるというのは、段々厳しくなってくるかもしれません。エネルギーを自前で確保しなければいけなくなる時代がくると思うんです。

食べ物でもそうです。食糧も自由に輸入ができるし続けられると考えるのはちょっと甘くないかと。

もちろん、数年単位の話じゃないです。１０年、２０年、３０年くらいの単位で考えた時にやはり、エネルギーも食糧も自由に輸入できる時代というのは、ちょっと厳しいんじゃないかなと、それぐらい考えるべきだと思うんです。その時に、やはり自前で食糧をかまえていくというのが重要でしょう。翻って、高知県は食糧供給県、農業は外貨を稼いできている産業です。日本もこういう県を大切にしなければいけない時代というのが、またやってくると思います。

それから、エネルギーを自給する。自給１００％は無理ですけど、できる限りそういう方向にものをもっていこうとすることは重要で、自然エネルギーなら高知県は、たくさんあります。太陽光や水力、森もあります。昔は森が全てのエネルギー源でした。物をつくるにしても燃やすにしても、木を燃やしていた。森の力がその県のその地域の限界を決めている、そういう時代がありました。それが今、石油が輸入できるようになって関係なくなりましたが、また再び、この森というのを生かしてこれをエネルギー源にしっかり再生可能な形で変えていく、そういうことが重要だと思うんです。

そういう時代においては、森林率８４％の高知県みたいなところは非常に追い風だと思います。

いずれにしても、食糧をもっと日本の中でとれるようにしよう。エネルギーをもっと自分達でかまえられるようにしようという時代において（中国とかインドの台頭が背景にあるわけですけど)、高知県というのは、随分良い方向に向いていると思います。そういう意味からも農業を大切にし、自然エネルギー開発を一生懸命やっていく、そういうことが必要だと思います。

Ｒさん：　食糧自給率のお話をされましたが、大学や高校、中学校、小学校といった、そういった教育において県の政策や日本の政策を教えることが重要であるということを僕は思っているので、よろしくお願いします。

知事：　二つの点があると思うんです。

一つは、やはり農業をしていない学生さんにしても、それから将来、今、農業していない人にしても、農家を応援してもらいたいと思うんです。農家を応援してもらうことで農家が元気になれば、食糧の生産もあがってくるじゃないですか。だから、そういう意味において地産外商と言っていますけど、地産地消で県内産のものを是非食べてもらいたいと思うし、そして、また国内産のものを是非食べるように心がけてもらいたいと思います。

例えば、教育の面からいけば、食育の教育を徹底することで、いい物をしっかり食べようという発想を皆が持ってもらうようになれば、国内産を食べる、これが増えてくると思うんです。

地産外商が必要だと私はいつも言っていますけど、前段にやはり、まず地産地消を徹底するというのがあって、そのうえで地産外商。二段階だと思っています。まず、そういう

教育面において、食育とかやることで県内産のものを、国内産のものを食べるように持っていく。それが農家の元気につながる。これが第一だと思います。

もう一つは、県外に出て行ってサラリーマンをされていた方が、高知に帰ってきてもう１回農業をやりたいとか、それから、そもそも高知県の出身じゃないけども高知に来て農業をやりたいと言われる方が結構いらっしゃる。そういう方々も是非高知で農業をやってもらいたいと思っているので、今、どうやっているかというと、研修をしっかり受けてもらっています。ものすごい技術をもった農家に引き受けていただいて研修をやっていただく。それからあとは、農大でそういう方に技術をお教えするという仕組みを設けたりしています。研修中は一定その間の生活を保障するぐらいのお金の補助もして、その研修をしっかりやって、そして就農する時には土地の紹介とかもしたりするとか、そういう仕組みを組み合わせています。非農家、それから、今は農大で学んだりしていない若い人なんかも将来やりたくなった時には、できるだけ温かく、是非なってくださいと受け入れられるような体制を整える。これが二番目です。

是非、今、農業にあまり興味を持っていない若い人にも、将来興味を持ってもらった時には、速やかに農業ができるように応援をしていきたいと、そう思います。

（４） 生徒あいさつ

Ｂさん： 本日は知事にはお忙しい中、高知農業大学校にお越しくださってありがとうございます。

話の中では地産外商など、高知の農業を広めていって、高知の農家、農業を活性化させていくような話をしていただき、大変役に立っていったと思います。

アンテナショップも、テレビでやっていたんですけど、龍馬の５００円玉、そういうのもすごく欲しいな、ユニークだなと思い、できれば高知のほうでもやっていただけたらなと思います。

知事は親近感のあるお茶目なところのある人だなと思いました。今日は本当にありがとうございました。

（５） 知事あいさつ（まとめ）

知事： 長時間ありがとうございました。農業大学校の関係の皆さん、先輩方、どうもありがとうございました。それから、生徒の皆さん、長時間ありがとうございました。

これから、高知県にとって農業というのは、本当に重要ですし必要です。日本にとっても必要だと思っています。その必要な農業にとって皆さんのような若い力は是非とも必要だと思っていますので、是非、これからも頑張ってください。大いに期待しています。